

7 (自由提案部門)

事業名 宍道湖夕日キャンペーンに向けた観光資源創出県民協働プロジェクト

実施主体 NPO法人 まちづくりネットワーク島根

県担当課 観光振興課

事業の成果

事業の目的 [観光交流]

- 平成16年度から整備が進められている「宍道湖夕日スポット」の平成20年春の完成時を見据え、新たな水都松江の観光資源とするための社会実験を行う。
- 社会実験を通して集めたアンケート結果等に基づく市民ワーキングを開催し、夕日スポットの活用、市民参加の方法等のアイデア、問題点を抽出し、「宍道湖夕日スポット」の有効活用の方向性を導く。

(社会実験内容)

・嫁が島ライトアップ ・カフェテラス ・夕日コンサート ・カヌー、ボート体験

事業の内容

- 夕日スポット有効利用の社会実験として、嫁が島ライトアップ等のイベントを10月15、16日に実施した。
- 社会実験について来場者にアンケート調査を行い、地域住民や観光客等の意見を収集した。
- この社会実験を基にした市民ワークショップを開催し、具体的な設備の提案や有効な運営方法など、実現に向けた手法や市民参加についての意見交換を行った。
- イベントについて、ポスター等で周知した。



目的の達成状況 [概ね達成できた]

- 時期、天候(イベントの舞台と背景の夕日)に恵まれ、新たな観光資源としての可能性を探ることが出来た。
- アンケート調査では、昭和40年代にあったライトアップの再開への要望は高く、明るさや色、点灯時間についても概ねの賛同が得られた。

反省点・改善点

- 整備途中の場所を利用したイベントであったため、場所の案内、周知が不十分であった。
(改善方法)
・ 広報内容に具体的場所、利用ルートを明確に示す。

協働の効果

県との協働内容 [協働して実施した]

- 社会実験についての規模、内容について意見交換しながら実施した。

県との協働効果 [概ね効果があった]

- 県民協働社会実験としての広報。
- 限られたスポットの特長を生かすイベントとして、多様な内容とせず、シンプルな内容で効果を高めた。

県への要望事項 [特にない]

反省点・改善点

- 協働事業後、今後の取り組み課題等についての十分な意見交換が必要であった。

市町村との協働 [協働して実施した]

- 松江市の管理空間利用や器財の借用について。

事業の継続

事業成果の活用 [活用されている]

- 昨年度の事業成果を基に、行政(市、県、国)と市民(NPO)の役割分担を図り、運営システムの確立を目指している。

事業の継続状況 [助成を受けずに継続実施している]

- 今後の具体的な運営システムの確立を目指した活動として、特に国交省との協議を行っている。

協働による発展 [協働により発展できる]

- 事業について、全体的な取り組み視点、役割分担等について具体的な意見交換を行うことが必要である。

